

国際学院新聞

第57号
(編集発行)
学校法人 国際学院
〒330-8548
さいたま市大宮区吉敷町2-5
TEL 048 (641) 7468
FAX 048 (641) 7432
インターネットホームページアドレス
http://www.kgef.ac.jp/

主なニュース

オーストラリア、カナダ、国内研修 …… 2面
私の実習日誌(健康栄養・幼児保育学科) …… 3面
オープンキャンパス 保護者対象キリア説明会 介護士講習会 …… 4面
五峯祭 味彩コンテスト、幼児絵画展 …… 5面
高校活動報告、高校海外研究 …… 6面
ユネスコ 中学校修学旅行 通商国際研修 オリエント …… 7面
ユネスコ 中学校修学旅行 通商国際研修 オリエント …… 7面
ユネスコ 中学校修学旅行 通商国際研修 オリエント …… 7面
ユネスコ 中学校修学旅行 通商国際研修 オリエント …… 7面

平成26年度 文科省中核的専門人材養成事業

本学の3件の取り組みが選定

新たに食育士制度推進 認定食育士の養成を目指して

文部科学省による平成26年度「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業に、昨年度に引き続き、国際学院埼玉短期大学が申請した「産学官コンソーシアム」が選定された。このコンソーシアムでは、産学官の連携による食生活の改善と健全な食生活の普及を牽引する中核的専門人材の育成及び職域プロジェクトの「寿司専攻コース」の制度構築及び実践と、今年度新規の「産学協働による認定食育士制度の構築及び実践」の3件が選定された。

論説



我が国における就学前教育は、幼稚園や保育所が中心となり、子どもの健全な成長を支えてきた。本学幼児保育学科の学生は、入学して間もない4月に幼稚園と保育所の機能や役割の違いを学んでいる。文部科学省や厚生労働省といった管轄省庁の違いはもとより、保育所の入所条件等を知り、就学前教育における施設機能の多様性とそこで活躍する保育者の役割

について知識や理解を得ている。一方、この二元化した就学前教育の現状を鑑み、20年以上も前から「幼保一元化」が提唱されている歴史についても学生は学び、保育行政の動向を注視してきた。平成18年に認定こども園法が施行され、幼稚園、保育所双方の特長を活かしつつ、現行の幼稚園、保育所に加え、「こども園」による保育が実施されることとなる。しかし、行政区分、補助金、保育時間、保育目的など二重構造が課題となり、社会から三元化と揶揄されることもあった。そのような潮流の中、さらに保育をめぐる社会問題は深刻の一途を辿ることになる。特にこの数年は、待機児童問題による保育格差、幼稚園の保育内容と保育所の保育内容による特長や保育料の差異などがメディアで度々取り上げられるようになり、行政、保育内容等に合わせて「一元化」の

子育て新制度と使命

具現を望む声の勢いを増していったのである。そこで政府は、消費税増税による財政の担保を越えて、保育を改革しようとして「子ども・子育て支援新制度」を平成27年度より本格的にスタートさせることとした。新制度による幼保連携型認定こども園の管轄は内閣府である。どのような背景をもつ子どもも平等に保育の質を担保され

た保育を受けることができるという特長をもっている。この新制度による幼保連携型認定こども園に勤務する保育者を職業名として「保育教諭」と呼び、幼稚園教諭免許並みに保育士資格の双方を所持した者が就ける職種は、平成31年より同種の園に勤務することはできない)となった。これを受け、平成26年からの5

年間を片方の免許資格所持者を対象とした特別措置期間とし、現場経験が一定期間以上ある幼稚園教諭免許所持者、あるいは保育士資格所持者に対して、養成校で特別開講された科目の単位取得を経るなどして申請すれば両方の免許資格を有することができることになった。本学では幼稚園教諭二種免許、保育士資格を卒業と同時に取得することができ、新制度による卒業生への影響は最小限にとどめることができ

教育提携に調印



平成26年9月18日にマレーシアの王立アラム・シヤアラム中等学校 (Sekolah Sui Tan Aham Shah) より引率教員3名と生徒14名が2度目の来校を果たした。王立アラム・シヤアラム中等学校は、マレーシアの行政新首都として発展中のプトラジャヤに存立する全寮制の男子校である。同校との交流は、2010年にインド、アフリカの第9回アジア・ヨーロッパクラスルームネットワーク会議への大野博之校長の出席に始ま

る。11年10月にアイルランドで開催された第10回の会議に校長と本校教員が参加した際、同校も出席しており、交流プログラムについて情報交換を行った。そして12年7月、同校で行われた「アジア国際キャンプ」に本校生徒・教員が参加し、学校間の交流が始まった。13年2月、同校の50周年記念式典に本校生徒・教員

が招待を受け訪問した。1か月後の同年3月には、今度は同校から代表生徒が本校に來校して本校生徒との交流を行っている。これは本校にとって初めて海外から複数の教員・生徒を受け入れた交流会であった。

東京オリンピック・パラリンピック 成功に向け連携協定締結

平成26年6月23日、早稲田大学大隈記念講堂を会場に2020年開催の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向け、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と国際学院埼玉短期大学を含めた全国552の大学・短大が連携協定を結び、オリンピック教育の推進や同ムーブメントの活性化が図られることになった。



同協定の締結式には、組織委員会関係者の他に出席大学の在学生や卒業生のアスリートも参加し、会場は厳粛な中にも6年後のオリンピック成功に向けた力強い決意がみなぎっていた。国際学院埼玉短期大学からは4名の教職員が出席したが、締結式の数日前に開催された組織委員会と大学・短大関係者による意見交換会にも全国の短大を代表して大橋副学長が参加し意見を述べた。

短期大学では、6年後の同大会開催に向けて学内にワーキンググループを立ち上げ、オリンピックをテーマにした授業やポスター掲示等、まずできることから取組を始めている。

上田埼玉県知事が来学

授業風景や調理実習を見学

平成26年7月24日、上田清司埼玉県知事が公務視察のため来学された。到着した上田知事を大野誠理事長が出迎え、しばし親しく歓談した後、学内をご案内した。幼児保育学科では、大橋副学長の案内でピアノ個室

での練習の様子や教室での授業風景などをご覧いただいた。23室ある各ピアノ個室の名称を表すプレートに歴史上の著名な音楽家の名前が付けられているのに気づかれて、とても興味深そうであった。



健康栄養学科では田中副学長の案内で調理実習風景を熱心に見学しながら、五峯祭に出展するため試作中の学生たちに食材や調理のコツなどの質問を投げかけたり、学生達から差し出された料理や洋菓子をおいしそうに試食されるなど、約1時間にわたり本学をご覧いただいた。

国際学院埼玉短期大学
幼児保育学科教授
学生部長 中平浩介

照 敦

昭和二〇年代後半に、小生は中国地方の山間の地に生まれ育った。そこにはのどかな自然が満ち溢れていた。当時の子供達の遊びは、テレビゲームのようなものではなく、山、川、田のような自然そのものが相手であった。そして、いつも近所の兄さん、同級生、そして下級生の友達と一緒に、集団で、毎日、暗くなるまで遊んでいた。今振り返ると、この様な遊びの中で目上の人への接し方、喧嘩では手加減の必要なこと、そして約束を守ること等多くの生きるための基本的な「人間力」が、実体験として自然と身につけていったのではないかと思っている。回顧主義ではないが、今から思えば最高の贅沢な環境の中の生活であったのではないかとと思う。さて、最近の中教審の答申等において、グローバル化や情報化の進展、社会の活力の低下、人間関係の希薄化などが指摘され、大学に対しては、予測困難な時代において、基礎力と将来に活力を見出す原動力としての人材の養成が必要であるとされ、今まさに教育改革が進められているところである。▼本学では、従来から建学の精神に基づき「人間教育」と「実践教育」に重点をおいた「人づくり教育」が行われ、多くの成果が生まれ、社会から高く評価されているものと自負している。これからも更に不易なる学びを通じて「人づくり教育」を深め社会に有為な人材を多く輩出し、社会の付託に応えたいと考えている。

異文化体験から学ぶ

オーストラリア研修

コミュニケーション力の重要さ痛感

オーストラリア研修実行委員長

半澤 祐樹 (健康栄養学科調理専攻2年C組)

オーストラリアでの研修 二日間という短い時間を通して、最も心に残っていたが、その短い時間の中でも本家の家族のような温かい関係を築くことができた。



オーストラリア研修は、学生195人が主体的に組織を立ち上げ、この研修を成功に導くために一人ひとりが責任感を持ち全員が力を合わせ、行動を共にしました。日本では決して学ぶことのできない外国の文化をこの研修で学んだことは、自らの見聞を広げるだけでなく、改めて日本の文化を見直す良い機会になりました。日本の文化を世界に向けて発信していく使命を自分たちが担うのだと実感できたと思います。この研修は学生にとって、大きな財産となったことは間違いないと思います。最後に、異文化に触れる

海外研修



ブリティッシュ・コロンビア州議事堂前で

オーストラリア研修は、二日間という短い時間を通して、最も心に残っていたが、その短い時間の中でも本家の家族のような温かい関係を築くことができた。

国内研修は、6月6日、7日に千葉県成田市・佐倉市で実施されました。当日は、あいにくの雨となっていました。木製の玩具が子どもにとってどのようなメリツトがあるのか興味を持って見学しました。事前学習によりある程度の知識は得ていましたが、実際に触ってみると、木ならではの温かさや丸みを感じ、これは子どもにぴったりの玩具だと思いました。

また、幾つかの車の玩具はコルクで作られていて、乳児が口に入れても危険性が低いように思われました。実際に手にとってみると、保育者を目指す者としては、材質の持つ豊かさを感じます。何をやるための玩具という意味よりも、木やコルクそのものであるという材質から受ける自然の力をより強く感じます。そこには、誤飲の危険回避という目的を超えた、自然との触れ合いがあり、大人とする積極的な姿勢はお互いに良い刺激を与えていました。

並みの中で日本とは異なる文化を肌で感じ、スケールの大きさや生活様式の異なりなど、日本にいただけでは知らなかったことを多く学びました。カナダは多民族国家であり、そのことから私たちの視野が確実に広がったことは、私たちにとってかけがえのない財産となりました。

私たちが事故や事件など何事もなく、全員が健康に研修を乗り越えられたことは、一人ひとりが国際学院埼玉短期大学の学生として

の自覚をきちんと持っているからだと思えます。そして全員がこんなにも充実感を味わい、楽しみながらも様々なものを見て、触れて、感じて、多くのことを学べた背景には、学院長先生や学長先生が事前に訪問して環境を整えてくださったことがあったと思います。そのように整った環境の中で得た素晴らしい経験を、きちんと将来に活かせるように今後も精進していきたいです。

本院では学院創立記念行事の取組みを行っている。この目的は、本院の学生生徒と教職員の協働による創立記念行事の取り組みを通して、学院の歴史と伝統を継承し、未来に向かって大きく成長する機会とするものであり、毎年12月に実施されている。

学内研修 千葉県成田市・佐倉市 日本の文化と歴史考える

正木千妃呂 (幼児保育学科2年B組)

国内研修は、6月6日、7日に千葉県の成田市・佐倉市で実施されました。当日は、あいにくの雨となっていました。木製の玩具が子どもにとってどのようなメリツトがあるのか興味を持って見学しました。事前学習によりある程度の知識は得ていましたが、実際に触ってみると、木ならではの温かさや丸みを感じ、これは子どもにぴったりの玩具だと思いました。

また、幾つかの車の玩具はコルクで作られていて、乳児が口に入れても危険性が低いように思われました。実際に手にとってみると、保育者を目指す者としては、材質の持つ豊かさを感じます。何をやるための玩具という意味よりも、木やコルクそのものであるという材質から受ける自然の力をより強く感じます。そこには、誤飲の危険回避という目的を超えた、自然との触れ合いがあり、大人とする積極的な姿勢はお互いに良い刺激を与えていました。

並みの中で日本とは異なる文化を肌で感じ、スケールの大きさや生活様式の異なりなど、日本にいただけでは知らなかったことを多く学びました。カナダは多民族国家であり、そのことから私たちの視野が確実に広がったことは、私たちにとってかけがえのない財産となりました。

私たちが事故や事件など何事もなく、全員が健康に研修を乗り越えられたことは、一人ひとりが国際学院埼玉短期大学の学生として

の自覚をきちんと持っているからだと思えます。そして全員がこんなにも充実感を味わい、楽しみながらも様々なものを見て、触れて、感じて、多くのことを学べた背景には、学院長先生や学長先生が事前に訪問して環境を整えてくださったことがあったと思います。そのように整った環境の中で得た素晴らしい経験を、きちんと将来に活かせるように今後も精進していきたいです。

本院では学院創立記念行事の取組みを行っている。この目的は、本院の学生生徒と教職員の協働による創立記念行事の取り組みを通して、学院の歴史と伝統を継承し、未来に向かって大きく成長する機会とするものであり、毎年12月に実施されている。

国内研修

応援メニューを考案し協力

さいたま市では、2013年より「ツール・ド・フランス」第100回大会を記念して、雰囲気そのま

さいたま市では、2013年より「ツール・ド・フランス」第100回大会を記念して、雰囲気そのま

今年度は第2回大会を盛り上げる様々な企画が実施された中、本学は、さいたま市都市戦略本部シティセールス部、コープみらいとの協働により、さいたまクリテリウムを応援するメニューの考案に協力してきた。活動の中心は、健康栄養学科の「KGSプリンタ」

今年度は第2回大会を盛り上げる様々な企画が実施された中、本学は、さいたま市都市戦略本部シティセールス部、コープみらいとの協働により、さいたまクリテリウムを応援するメニューの考案に協力してきた。活動の中心は、健康栄養学科の「KGSプリンタ」

今年度は第2回大会を盛り上げる様々な企画が実施された中、本学は、さいたま市都市戦略本部シティセールス部、コープみらいとの協働により、さいたまクリテリウムを応援するメニューの考案に協力してきた。活動の中心は、健康栄養学科の「KGSプリンタ」

市のイベントで披露

9品目のフランス家庭料理



試作風景

昼休みに打ち合わせ

今年度は第2回大会を盛り上げる様々な企画が実施された中、本学は、さいたま市都市戦略本部シティセールス部、コープみらいとの協働により、さいたまクリテリウムを応援するメニューの考案に協力してきた。活動の中心は、健康栄養学科の「KGSプリンタ」

今年度は第2回大会を盛り上げる様々な企画が実施された中、本学は、さいたま市都市戦略本部シティセールス部、コープみらいとの協働により、さいたまクリテリウムを応援するメニューの考案に協力してきた。活動の中心は、健康栄養学科の「KGSプリンタ」

今年度は第2回大会を盛り上げる様々な企画が実施された中、本学は、さいたま市都市戦略本部シティセールス部、コープみらいとの協働により、さいたまクリテリウムを応援するメニューの考案に協力してきた。活動の中心は、健康栄養学科の「KGSプリンタ」

カナダ研修

仲間の支えと多くの学び

松田 詩穂 (幼児保育学科2年B組)

研修委員長になってから反省会を終えるまでの7か月間で、私は委員長として多くのことを感じ考え、学ぶことができました。時には一人で思い悩むこともありましたが、幼児保育学科19名、健康栄養学科7名の計26名のメンバーの支えと協力で無事に終えることができました。メンバーはみな、事前学習を積んでき

たとは言え、少なからず英語に不安を抱いていた始めの頃は言葉で伝えるというよりも動作主体になっていきました。しかし、日々の大学の生活、そして毎日会話をすすめるホストファミリーのおかげで徐々に言葉主体でコミュニケーションが取れるようになっていきました。積極的に現地の人と交流を図ろうと

する積極的な姿勢はお互いに良い刺激を与えていました。ホストファミリーとの別れの日は感極まる人も少なくなく、素敵な出会いと貴重な経験によって最高の思い出が出来たことを言葉で示していました。また、日々のアクティビティを通じてクラス、学科を超えた交流が出来、全員が一つとなった大きな達成感に包まれました。

市内研修では、絵本から飛び出したような素敵な街並みの中で日本とは異なる文化を肌で感じ、スケールの大きさや生活様式の異なりなど、日本にいただけでは知らなかったことを多く学びました。カナダは多民族国家であり、そのことから私たちの視野が確実に広がったことは、私たちにとってかけがえのない財産となりました。

私たちが事故や事件など何事もなく、全員が健康に研修を乗り越えられたことは、一人ひとりが国際学院埼玉短期大学の学生として

の自覚をきちんと持っているからだと思えます。そして全員がこんなにも充実感を味わい、楽しみながらも様々なものを見て、触れて、感じて、多くのことを学べた背景には、学院長先生や学長先生が事前に訪問して環境を整えてくださったことがあったと思います。そのように整った環境の中で得た素晴らしい経験を、きちんと将来に活かせるように今後も精進していきたいです。

50周年の節目越えて 学院創立記念行事 12月3日に式典と講演会

70名が参加し、さいたま市民会館おおみやで「国際学院創立記念式・講演会」として行われる。第一部は本学院創設者である大野誠理事長の講話と短期大学・中学校高等学校の大野博之学長・校長からの講話、そして代表学生生徒による各校の活動報告などが行われる。第二部では、元埼玉県教育委員会教育長の稲葉喜徳先生から「学びは楽しい」と題して先生のご経験を通じて本学院の学生生徒にとって有益となる記念講演が行われる予定である。

母校で栄養教諭の実習

健康栄養学科 栄養士専攻2年A組
生田 千明

私は5月の1週間、母校である川口市立新郷東小学校で栄養教諭の教育実習をさせていただきました。実習では、2年生のグリ



「自分でむいた児童の姿や、給食の時間にリンピースのさやむき体験では、実際にグリリンピースのさやむきを、それをその日の給食であるじゃがいものトマト煮に使われまし

病院実習で基礎の大切さ実感

健康栄養学科 栄養士専攻2年B組
樋口 友紀

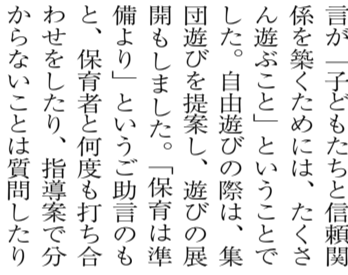
今回、私は病院で校外実習を行わせていただき、2週間という短い期間ではありましたが多くのことを経験し、学ぶことができました。通常の業務を行っていた忙しき現場に入り、実習をさせていだいたのです。栄養士や調理員の皆さんが私たち実習生に優しく丁寧に分かりやすくご指導してくださり、大きな怪我や体調を崩すこともなく実習を終えることができました。

今回、私は病院で校外実習を行わせていただき、2週間という短い期間ではありましたが多くのことを経験し、学ぶことができました。通常の業務を行っていた忙しき現場に入り、実習をさせていだいたのです。栄養士や調理員の皆さんが私たち実習生に優しく丁寧に分かりやすくご指導してくださり、大きな怪我や体調を崩すこともなく実習を終えることができました。



私の実習日記

や心配りも作業をスムーズに行うために大切なことだと学びました。私たち実習生にとっては慣れない作業が多く、一つの作業に時間がかかってしまいました。また、分からぬことについては何度も質問したり、それに対しては説明していただき、反省点は少なくありません。自分なりに積極的な態度で臨む努力をしていますが、もっと積極的に行動できたら良かったと思います。強く感じています。最後に校外実習での貴重な経験をしっかりと身に付け、多くの人々から信頼される栄養士となれるよう努力していきたいと思



私の実習日記

成長に欠かせない現場の緊張感

幼児保育学科2年D組
平岩 美佳

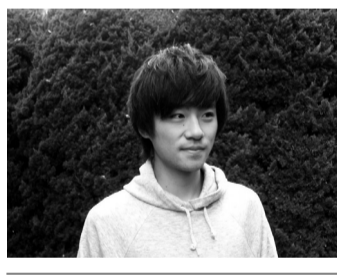
私は東日本大震災を経験し、避難所ではたくさんの子供と一緒に過ごした経験があり、人の役に立ちたいという思いと、子どもが好きなこと、得意なことを活かした仕事に就きたいという思いから保育者を目指しました。

今回の実習では不安や緊張で、たくさん失敗する場面もありました。責任実習は5歳児で行うため、11日間同じクラスで実習しました。そこでいただいたご助言が「子どもたちと信頼関係を築くためには、たくさん遊ぶこと」ということでした。自由遊びの際は、集団遊びを提案し、遊びの展開もしました。「保育は準備より」というご助言のもと、保育者と何度も打ち合わせをしたり、指導案で分らないことは質問したり

しました。製作のお手本やゲームの準備、子どもたちの前で何を話すのかを文字にすることで心ゆとりを持つことができました。最終日のゲーム大会では子どもたちがとても楽しんで取り組み、お別れの際も「先生ありがとう」「また幼稚園に来てね」と声を掛けてくれました。少しは信頼関係が築けたかなと思います。

春からはこの実習園でお世話になります。クラスの中には同じ震災で被災した子がいました。様々な事情を抱えた子どもたちに寄り添うことのできる保育者になりたいと思います。理想の保育者を目指しながら、子どもと共に成長できるよう努めます。

施設実習を通して専門知識より人間性
幼児保育学科2年C組
渥美 京平



施設実習を通して専門知識より人間性

私が施設実習をさせて頂いたのは、児童養護施設です。児童養護施設とは、保護者のない児童、虐待されている児童など、環境上養護を要する児童を入所させて養護し、また退所した児童の自立を援助する場所です。

「愛情を求めている」「この人はどういう人なのか反応を見ているから抱きついたり」などが思い浮かんだのですが、そのどれもが正解の可能性を含み、逆にそうとしか見えなくなってしまう過ちでもある考察でした。そこで私は、児童が私に求めている姿を知るために

に、児童の表情や行動を見て、声のかけ方、距離感などを意識して関わることを心がけました。今までは、子どもたち一人ひとりがどのような特性を持っているのかを実習生が観察し、感じ取る立場でしたが、場合によっては、それが逆になることがありま

す。子どもたちが私を観察しているように感じることがありました。私はどのように接すればいいのかからず、子どもたちと日々一緒に暮らしている職員の方々に多くのアドバイスをいただきました。施設実習を通して、保育者になるために専門的知識は必要ですが、その前に人として大切なものが何かを改めて感じる事ができた実習でした。

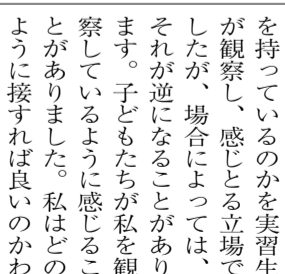
子どもたちに励まされる

幼児保育学科2年A組
岩谷 萌

私は、保育実習を通して、多くのことを学ぶことができました。私が実習をさせていだいた保育園は、幼児クラスが縦割り保育を行っていました。私は、幼児クラスに2週間入ることになりました。異年齢保育のため、3歳児から5歳児が

保育所での実習を終えて子どもたちに励まされる
幼児保育学科2年A組
岩谷 萌

部分実習では、製作活動を行いました。時間配分や説明がうまくいかず、反省する点が多々ありましたが、子どもたちの笑顔や「楽しかった」という言葉、保育者からのアドバイスをいただき、責任実習では、もっと頑張ろうという前向きな気持ちになりました。責任実習では、前日からとても緊張していましたが、保育者からあたたかい言葉をいただいたおかげで、失敗することを恐れず、保育を行うことができました。



子どもたちに励まされる

短大生の学びを実感してみよう!

好評だった「模擬保育」「料理実習」

今年度予定していたオープンキャンパスの全日程が終了した。4月19日、5月24日、6月28日、7月12日、19日、8月2日・22日、9月20日、10月4日の計9回実施され、延べ1429名の高校生・保護者が来校した。



オープンキャンパス全日程が終了

本学並びに両学科の紹介をはじめ、「短大生の学び」を実感してみよう!」をキャッチコピーに、各学科の授業内容が分かる体験授業、教員や在学生との相談コーナー、キャンパスツアーなどをプログラムに組み込んだ。

幼児保育学科は、毎回体験授業テーマを設定し、1回のオープンキャンパスで2つないし3つの授業が体験できるよう、配慮した。たとえば「子どもと楽しむ保育活動」という体験授業テーマでは、「保育学」の身体表現、「音楽表現」の3つの体験授業を用意し、保育学では「紙芝居作り」を、身体表現では「リズムダンス」を、音楽表現では「夏の歌の歌唱」を参加者が体験した。



集団調理実習室



模擬保育室「おそらのへや」

学院創立50周年記念事業 キャンパス・リニューアル プロジェクトを展開中!

主な工事 耐震補強工事 模擬保育室「おそらのへや」設置 中高一貫部棟(仮称)の建設

本学院は昨年創立50周年を迎え、記念事業のひとつに「キャンパス・リニューアルプロジェクト」を掲げ、教育水準を維持・向上するための施設・設備を含む教育環境の整備を行っている。

大宮キャンパスでは、平成26年8月から9月にかけての夏季休業期間を中心に耐震補強工事の他、幼児保育学科では本館三階に現場に近づいた学びができるよう、幼児用水道トイレ、



とに和食・中国料理・西洋料理・製菓の実習を組み、

本学チームが優秀賞

第4回学生政策提案フォーラムinさいたまが平成26年11月16日に開催



第4回学生政策提案フォーラムinさいたま

参加者はプロの味に挑戦した。また、参加者全員に教員との面談の時間を設け、資格取得や授業内容、実習や学校生活など、様々な質問に答えることで、高校生や保護者に安心してもらえるように努める姿勢に幼児保育学科同様、アンケート結果から、高い評価を得たことを窺い知ることができた。



達成に向けて」をテーマに提案を行った。審査により最優秀賞1校、優秀賞3校が選ばれ、本学は今回見事優秀賞に輝き、表彰式では清水さいたま市長から、賞状とトロフィー、副賞が代表者に手渡され、その榮譽が称えられた。代表者の小林敦子さん(健康栄養学科栄養士専攻1年)は受賞した後「限られた時間の中でこれだけのものができたのは、チームメンバーの力はもとより、チーム以外でも色々支援してくれた多くの皆さんのお蔭です」と喜びを語った。

県内で唯一の開講

介護食士3級認定講習会



首都圏各地から管理栄養士や介護福祉士、主婦など幅広い経歴の人々が受講

介護食士3級認定講習会が開催されている。介護食士は内閣総理大臣認定の公益社団法人・全国調理職業訓練協会が、介護に携わる方たちの調理技術を向上させる目的で設けた認定資格制度で、公益事業として認定されている埼玉県内では本学が唯一の講習会実施施設で、これまでに81名の方が3級の認定を受け、資格を取得している。

今年度、5年目の開講となり、平成26年10月11日から平成27年1月31日までの期間に全13回実施される。調理理論、調理実習を始め医学的基礎知識、食品衛生学、栄養学、食品学、高齢者心理、介護食士概論に至るまで合計72時間、それぞれ専門性の高い内容を専門の講師を招き開講されている。受講生は、専業主婦の方から、実際の介護現場で働く介護福祉士や調理師、管理栄養士など様々な経歴の方が集まり、同じ目的意識を持ち有意義な講習となっている。埼玉県在住者のみでなく東京都、神奈川県、千葉県、茨城県などからも毎年、多くの方が受講している。



3級講習会の調理実習は毎回実施され、咀嚼困難、嚥下障がい、食事を噛みにくい高齢者のための調理を学んでいる。さらに既成食品や冷凍食品の上手な利用方法、市販されている介護補助製品の紹介等、その内容は多岐にわたる。また、野

菜や肉、魚の切り方からだし汁の取り方、イタリア料理を用いたテクニクや、スイーツを使用して栄養を補う方法など、様々な分野の料理を介護食に活用する方法を学べる調理師養成施設ならではの内容となっている。

2年生保護者対象キャリア説明会
担任との懇談会も開く

本学は例年高い進路実績を上げていく。特に専門職への就職率は高い水準を誇っている。しかし、こうした高い就職率も、決して一朝一夕で上げられるものではなく、50年を超える学院の伝統に基づくものであると考えられる。そして、近年の厳しい就職状況を踏まえ、就職活動が本番をむかえる時期に、さらに内容を深めて開催された。

今年度、健康栄養学科は6月21日(土)に、幼児保育学科は9月27日(土)に説明会を開催し、両科とも多くの保護者が来校した。中には地方から駆け付けた保護者や、両親で参加される保護者など、その関心の高さがうかがえた。説明会ではそれぞれ学長挨拶の後、昨年度の採用状況や今年度の求人情報。そして、学生の就職活動の取り組み方や家庭での対応についてキャリア関係の教員や各学科の教員が講話や資料に基づき説明が行われた。

短期大学 深まる秋の多数の来場者

人気キャラクターも登場!

平成26年11月1日(土)、2日(日)の両日、国際学院の三大行事の一つである五峯祭が開催された。今年度のテーマである「HAND IN HAND」つながる手広がる輪には、学科を越えて、さらにご来場頂いた多くのお客様と繋がることで五峯祭を成功に導きたいという思いが込められた。



確認して備えた事もあり、大きな混乱もなく開会式を執り行うことができた。幸い、2日目の朝、晴れ間がのぞき、開会式で披露できなかったセレモニーを学院長先生ご出席のもと、披露することができた。雨の影響があったにもかかわらず、来場者数は4875名に及んだ。

五峯祭は、本学の建学の精神である、誠実、研鑽、慈愛、信頼、和睦を天高くそびえる五つの峯に例えて名づけられた。例年この建学の精神を取り入れたセレモニー作品を開会式でも披露している。今年度は人気キャラクターを登場させつつ、完成度の高いものとなった。

今年度の五峯祭は、耐震工事の影響もあり、短期間で制作を完成させねばならなかった。生憎雨模様の開幕となったが、数日前より予報は、今年度の五峯祭は雨の予報が出され、例年に加えさらに安全面への配慮を必要としました。私が指示に迷っている時には、積極的に協力する仲間の姿に助けられました。



今年度の五峯祭は雨の予報が出され、例年に加えさらに安全面への配慮を必要としました。私が指示に迷っている時には、積極的に協力する仲間の姿に助けられました。

五峯祭華やかに開催!

中学校 日頃の学習成果を発表

部活動披露、模擬店も大入り

9月13日(土)・14日(日)の両日、中学校高等学校の第17回「五峯祭」が挙行された。生徒一人ひとりの「情熱」が通じたような晴天に恵まれ、2000人近くの来場者を迎えることになった。今年度は「Open the door」未来をきりひらこう!のテーマのもと、生徒会・実行委員会を中心に階段アートを装飾するなど生徒の意気込みが強く感じられるも

本校の五峯祭は開学以来、日頃の学習成果を発表する場である。最優秀賞には3年A組「香アロマンルト作り」が選ばれ、その他の展示においても甲乙つけ難い工夫を凝らしたものがあがり、熱心に取り組んだ成果がみられた。

今年度の五峯祭は雨の予報が出され、例年に加えさらに安全面への配慮を必要としました。私が指示に迷っている時には、積極的に協力する仲間の姿に助けられました。

今年度の五峯祭は雨の予報が出され、例年に加えさらに安全面への配慮を必要としました。私が指示に迷っている時には、積極的に協力する仲間の姿に助けられました。

今年度の五峯祭は雨の予報が出され、例年に加えさらに安全面への配慮を必要としました。私が指示に迷っている時には、積極的に協力する仲間の姿に助けられました。

今年度の五峯祭は雨の予報が出され、例年に加えさらに安全面への配慮を必要としました。私が指示に迷っている時には、積極的に協力する仲間の姿に助けられました。

今年度の五峯祭は雨の予報が出され、例年に加えさらに安全面への配慮を必要としました。私が指示に迷っている時には、積極的に協力する仲間の姿に助けられました。

今年度の五峯祭は雨の予報が出され、例年に加えさらに安全面への配慮を必要としました。私が指示に迷っている時には、積極的に協力する仲間の姿に助けられました。

今年度の五峯祭は雨の予報が出され、例年に加えさらに安全面への配慮を必要としました。私が指示に迷っている時には、積極的に協力する仲間の姿に助けられました。

今年度の五峯祭は雨の予報が出され、例年に加えさらに安全面への配慮を必要としました。私が指示に迷っている時には、積極的に協力する仲間の姿に助けられました。

今年度の五峯祭は雨の予報が出され、例年に加えさらに安全面への配慮を必要としました。私が指示に迷っている時には、積極的に協力する仲間の姿に助けられました。

今年度の五峯祭は雨の予報が出され、例年に加えさらに安全面への配慮を必要としました。私が指示に迷っている時には、積極的に協力する仲間の姿に助けられました。

今年度の五峯祭は雨の予報が出され、例年に加えさらに安全面への配慮を必要としました。私が指示に迷っている時には、積極的に協力する仲間の姿に助けられました。

今年度の五峯祭は雨の予報が出され、例年に加えさらに安全面への配慮を必要としました。私が指示に迷っている時には、積極的に協力する仲間の姿に助けられました。

今年度の五峯祭は雨の予報が出され、例年に加えさらに安全面への配慮を必要としました。私が指示に迷っている時には、積極的に協力する仲間の姿に助けられました。

今年度の五峯祭は雨の予報が出され、例年に加えさらに安全面への配慮を必要としました。私が指示に迷っている時には、積極的に協力する仲間の姿に助けられました。

今年度の五峯祭は雨の予報が出され、例年に加えさらに安全面への配慮を必要としました。私が指示に迷っている時には、積極的に協力する仲間の姿に助けられました。



第22回 味彩コンテスト

平成26年7月5日に、第22回「味彩コンテスト」が国際学院埼玉短期大学で開催された。このコンテストは、主催が国際学院埼玉短期大学及び、同窓会「あすなろ会」・「けやき会」、後援団体として、埼玉県、さいたま市を始め、他7団体と、協賛12団体の支援・協力を得て実施された。

本コンテストは、食生活の改善や地産地消を目的とした料理コンテストとして、平成5年から開催されており、今年度の課題は、昨年同様埼玉県産の黒豚・

野菜を使用し、一般は「ごはんにあう彩り主菜料理」、高校生は「素材の味と彩りをいかした高校生のバランス弁当」とし、一般・高校生を対象に募集した。応募者総数は438名(一般の部272名、高校生の部166名)で、ほぼ昨年と同じであった。

この中から、事前に第一次審査(レシビ審査)を経た一般の部18名、高校生の部10名が、コンテスト当日の第二次審査(調理・試食審査)に臨んだ。本年の高校生の部を、昨年より8名減らし10名にした理由は、昨年度までは調理台を2名で使用しており、事故防止の配慮から、調理台は1名で使用することに改めたためである。

審査は学内外の審査委員によって、40分間の調理審査後、出来上がった料理の試食審査が行われ、各賞が決定された。最優秀作品の学長賞は、一般の部では、安岡千穂さんの「黒豚しゃぶしゃぶ彩り野菜のラタトウユのせ」、高校生の部では、小野田有莉さんの「ミラクルロール」がそれぞれ選ばれた。また、これらの作品は本学の五峯祭(11月1日・2日)において、レストラン彩り亭のメニューとして来場者に販売された。味彩コンテストの審査の様子には、7月8日付けの埼玉新聞にも掲載され、その意義や内容が広く紹介された。来年度からは、「彩たまご」も使用食材として採用される予定である。これからも味彩コンテストの発展と充実を努め、地域の健康づくりや地産地消に貢献できれば幸いである。

県産の黒豚・野菜を使用

学長賞に安岡さん(一般の部)、小野田さん(高校生の部)

平成26年7月5日に、第22回「味彩コンテスト」が国際学院埼玉短期大学で開催された。このコンテストは、主催が国際学院埼玉短期大学及び、同窓会「あすなろ会」・「けやき会」、後援団体として、埼玉県、さいたま市を始め、他7団体と、協賛12団体の支援・協力を得て実施された。

本コンテストは、食生活の改善や地産地消を目的とした料理コンテストとして、平成5年から開催されており、今年度の課題は、昨年同様埼玉県産の黒豚・

野菜を使用し、一般は「ごはんにあう彩り主菜料理」、高校生は「素材の味と彩りをいかした高校生のバランス弁当」とし、一般・高校生を対象に募集した。応募者総数は438名(一般の部272名、高校生の部166名)で、ほぼ昨年と同じであった。

この中から、事前に第一次審査(レシビ審査)を経た一般の部18名、高校生の部10名が、コンテスト当日の第二次審査(調理・試食審査)に臨んだ。本年の高校生の部を、昨年より8名減らし10名にした理由は、昨年度までは調理台を2名で使用しており、事故防止の配慮から、調理台は1名で使用することに改めたためである。

“ここがよし”の15作品に賞

77園・所から726点の応募



第29回 幼児絵画展

幼児絵画展は、本学の大学祭である「五峯祭」に合わせて実施され、11月1日(土)、2日(日)に盛會裏で開催された。幼児絵画展は、昭和61年に第1回を開催して以来、今年で29回を数え、埼玉県内の幼稚園や保育所等に通っている3歳から5歳までの子どもを対象とし、幼児教育における表現活動への興味・関心を高め、県内幼児教育の振興に寄与することを目的として開催している。今年度は、77園・所から726点の応募があった。

10月15日(水)に行われた審査会では、塗師祥一郎委員長を中心に、学外の先生方、並びに学内の審査委員を

合わせて13名の審査委員が、すべての作品を正に審査した。「ここがよし」(個性が溢れているか・心がこもっているか・画面いっぱい描かれているか・喜びにあふれているか・焦点がはっきりしているか)を観点とし、とくに優れた作品には、学長賞、埼玉県知事賞、審査委員長賞をはじめとする15の賞の選出を行った。

臨機応変に行動し 協力する力付く

7月下旬から幼児絵画展に向けての準備が始まり、幼児保育学科の先生方に支えられながら学生委員が中

今年度も開催にあたり、ご尽力いただいた諸先生方、ご支援・ご協賛を賜りました各団体の皆様、さらには企画・運営・準備に関わった教職員・事務職員の皆様に感謝申し上げます。最後に、作品を出品された子ども達と共なる活躍を期待すると共に、保護者の方々と協力して下さった幼稚園・保育所等の皆様方にも厚く感謝申し上げます。

今回の絵画展を通して、自分で考えて臨機応変に行動する力と協力し合う力が身についたと思います。この経験で学んだことを今後の活動に活かしていきたいです。

見事! 国体へ3選手が出場

射撃部 男女全国制覇の目標掲げ日々努力



射撃部は、「全国制覇」という目標を掲げ、日々活動に取り組んでいる。4月に岐阜で行われた全日本ジュニアチームライフル射撃大会において、チームライフル女子個人の部で小山さんが5位入賞を果たした。6月の関東大会では、チームライフル男子団体戦において大会新記録で優勝、個人戦ではファイナル大会新記録で浅井くんが優勝、井上くんが5位、山崎くんが7位、チームライフル女子団体3位、チームライフル女子個人で小山さんが大会新記録で2位、チームピストル女子で関根さんが5位にそれぞれ入賞した。男子は団体、個人ともに優勝し、全国大会に向けていい弾みをつけられた。7月に広島で行われた全大会には6名が出場し、チームライフル男子団体は5位、女子個人で小山さんが4位に入賞した。目標である全国優勝に手が届かず、悔しい思いをしたが、2年生にとっ

ては全国で戦うことの難しさを肌で感じた。今後の男子全国制覇という目標を掲げ、日々努力を重ねていく所存である。

8月に行われた全関東選手権大会兼国民体育大会関東ブロック大会では、エアライフル男子で2年生の矢崎くんが5位、チームライフル男子個人で2年生の浅井くんが4位入賞、チームライフル女子個人で小山さんが5位、チームピストル女子で2年生の関根さんが3位に入賞した。

2年生が活躍し始めたことで、今後期待が出来る。そして、試合結果より、2年生の関根さんは国体の埼玉県代表選手となり、昨年の関東ブロック大会で惜しくも1点差で国体出場を逃した雪辱を晴らす結果となった。また、エアライフル男子で岩橋くん、チームライフル女子で小山さんも国体出場をすでに決めており、3名の国体選手を輩出することが出来た。今後も男女全国制覇という目標を掲げ、日々努力を重ねていく所存である。



全国で戦う力が確実についた陸上部

クラブ活動報告

陸上競技部は、5月に行われた埼玉県大会において、9種目で関東大会の出場権を獲得した。6月に神奈川県での関東大会では、100mの落井優華さんが4位入賞、100mハードルの田中陽夏莉さんが準優勝、走高跳の飯田夏鈴さんが3位入賞、やり投の目下部香奈子さんが4位入賞、4×100mリレーは辻本星菜さん、落井さん、南雲美穂さん、田中さんのオーダーで準優勝、4×100mリレーは兼次葉月さん、落井さん、南雲さん、宮井沙華さんのオーダーで6位入賞を果たし、6種目において全国高等学校総合体育

陸上競技部 全国の舞台で活躍

大会への出場を決めた。また、学校対抗でも総合5位入賞を果たすことができた。

8月、山梨県で行われた全国高等学校総合体育大会では、4×100mリレーにおいて、予選を46秒83のチーム新記録で走ることができた。

しかし、迎えた準決勝は、バトンミスがあり惜しくも決勝進出はならず。残念ながら目標である入賞を果たすことはできなかったが、3種目において準決勝進出を果たすなど、全国で戦う力が確実に付いていることが実感できた。

さらに、8月末に大阪での全国選抜大会では、清水

高校海外研究

海外・語学・国内研修

異文化体験を進路活動に生かす



今年度も第2学年の海外研修・語学研修・国内研修がそれぞれ無事に終了した。

海外研修は、本校の建学の精神及び教育方針を基に、異文化体験を通じて国際理解を深めるとともに規律正しい集団行動から協調性・実行力・責任感を養うことを一般目標(GIO)とし、授業の一環として行われる。

海外研修コースでは、2泊3日のホームステイ、姉妹校提携している高校への訪問、小学校・デイケアセンター・シニアホームへの選択コース別訪問、バンクーバー・ピクトリアでの別研修などを経験した。ホームステイでは、一般的な旅行では知ることのできない現地での生活の様子なども学習する貴重な機会となり、「さよならパーティー」では涙の別れがあららちで見られた。高校訪問では、ソーラン節を披露し、大縄跳びを一緒にを行い、和やかな交流をすることができた。

語学研修コースは、バンクーバー島のナイモでホームステイをしながらVUIの語学研修プログラムに参加した。様々な体験を含んだ授業プログラムに対して積極的に取り組み、また、

ちほるさんが三段跳に出場し、準優勝を果たした。惜しくも全国制覇はならなかったが、昨年の全国大会から常に入賞を続ける等大きな舞台で安定した力を発揮している。

そして、10月の長崎での国民体育大会の埼玉県代表に1年生の田中陽夏莉さんが100mユースハードルの選手として選出された。インターハイでも1年生ながら準決勝進出を果たし、今後が期待される。

陸上競技部は、部訓である「凡事徹底」の精神のもと、目標である全国制覇に向けて、今後もそれぞれの課題と向き合い成長していきたいと考えている。

恒例行事である夏季進学合宿が第3学年と第2学年は8月19日より8月22日までの3泊4日、第1学年は20日から22日までの2泊3日の日程で行われた。第2学年、第3学年は翌日の23日には、その学習成果を確かめるべく、校内で模擬試験に臨んだ。今年度は87名と過去最高の生徒が参加し、国立オリンピック記念青少年総合センターでの実施となった。

この合宿は第1学年から第3学年まで全学年の生徒が参加して行われる。朝は6時半のラジオ体操から始

「凡事徹底」の部訓のもと成長

本校では留学生を積極的に受け入れているが、この9月から今年度2人目の長期留学生を受け入れた。オーストリアから来たシモン・フリッツくん。シモンくんは、現在1年G組の一員として、五峯祭開催期間中に実施した古着回収の活動にも積極的に取り組んだ。来日から約2ヶ月が経過した現在では本校の雰囲気にも慣れ、十分に溶け込んでいるようである。先日よ物のシェイクスピアの演劇

高校夏季進学合宿

過去最大の参加者

朝はラジオ体操

夜は自習と確認テストも



また、午前9分2コマ、午後3コマ、夜は2時間の自習と確認テスト朝から晩まで息つく暇もなく、学習に取り組んだ。今年の3年生は、彼らの要望もあって、その殆どを自習の時間とした。自習をしながらわからないところは積極的に教員に質問し、そしてまたひたすら自習に取り組んでい

員として、本校生徒と共に勉強している。

シモンくんが登校しはじめた9月初旬はちょうど文化祭前で、クラスは五峯祭の準備に取りかかっている時期だった。クラスの出し物シェイクスピアの演劇

今年も例年以上の成果を上げられたものと確信している。授業に臨む真剣な眼、自習時間にひたすら問題を解く姿、仲間と切磋琢磨しながら学力の向上を目指す姿がとも印象的であった。毎年の積み重ねにより、先輩から後輩へとよき伝統が確かに受け継がれていることを感じる。どの生徒も、いわゆる受験学力の向上に努めることができ、進学実績向上の牽引力であるよき伝統のひとつとして、来年度の生徒たちへと受け継がれていくのであろう。

「一流の進学校」に成長するために、国際学院の進学熱はますます温度を上昇させている。

留学生紹介



オーストリア・フィンランドから留学生来校

本校も留学生の受け入れを開始して9年目となる。今まで多くの留学生とともに学んできたが、海外の生徒と交流する機会が多い本校だからこそ、本校生徒が異文化に触れ、理解するきっかけを作ることができ

では英語でのナレーターを務め、クラスの一人として出し物の成功に貢献した。また部活動では、すでに4月から2年C組で勉強しているフィンランド人のスズイさんと共にユネスコ部に18日に来校したマレーシア王立アラムシャー中等学校の生徒と部員として交流を深めた。彼女の日本語の上達は目を見張るほどで、英語で話しかけても日本語で答えることもあるほどだ。

一方、4月に来日し半年が経過したスズイさんはクラスにも馴染み、新しく入ったユネスコ部でも、9月18日に来校したマレーシア王立アラムシャー中等学校の生徒と部員として交流を深めた。彼女の日本語の上達は目を見張るほどで、英語で話しかけても日本語で答えることもあるほどだ。

本校も留学生の受け入れを開始して9年目となる。今まで多くの留学生とともに学んできたが、海外の生徒と交流する機会が多い本校だからこそ、本校生徒が異文化に触れ、理解するきっかけを作ることができ

ユネスコ活動 インドネシアから教員・生徒来校

ESDをさらに推進へ

5月23日(金)から31日(土)まで、インドネシアの中学校であるセコラ・イスラム・フイトラ・アル・フイクリ (Sekolah Islam Fitrah Al Fikri) から教員3名・生徒10名の計13名が本校で滞在し、本校生徒と様々な交流活動を行った。

23日には、午後伊奈町長への表敬訪問を行い、生徒が元気に日本語であいさつを述べる姿が見られた。土曜日には、本校中学生とともに伊奈町のバラ祭りでも



本校と海外の学校から教員・生徒を1週間という期間にわたって受

も非常に意義のある交流プログラムになったと感じている。今回の受け入れを通して学んだことを生かし、本校のESD教育をさらに推進させていきたい。

シンガポールで開催の IFW2014に参加

春休み期間中の、5日間に亘ってシンガポールのOver Secondary Schoolに於いて第3回のIFW (International Friendship Week) が開催された。参加国は開催国シンガポール、イ



春休み期間中の、5日間に亘ってシンガポールのOver Secondary Schoolに於いて第3回のIFW (International Friendship Week) が開催された。参加国は開催国シンガポール、イ

中学校第一期生修学旅行へ

2年生が広島・京都・奈良に

去る9月30日から10月4日まで、中学校第2学年の修学旅行が広島・京都・奈良で行われた。これは、ユネスコスクールに通う生徒としての自覚を持って世界



去る9月30日から10月4日まで、中学校第2学年の修学旅行が広島・京都・奈良で行われた。これは、ユネスコスクールに通う生徒としての自覚を持って世界

に刻まれたことを、今後の生活の中で活かして、後進に伝えていくことを願っている。

京都・奈良では、清水寺、金閣寺、東大寺などを訪れ、社会や国語の時間を通して事前学習を行い、また、現地の語り部から教えていただいた史実やエピソードを通して、新たな歴史的観

通信課程が宿泊研修

富士朝霧高原で仲間と交流

今回、9月に実施された富士朝霧高原研修は、緑に囲まれた富士河口湖畔での自然を体感し、友人と宿泊を共にすることで、生きる力と豊かな心を育成することを目的とし、班行動を通じて、集団生活の規律や協

平成26年度 オリエンテーション 学内と軽井沢で実施



春の暖かい陽気の中、桜舞う時期に行われる行事がオリエンテーションである。平成26年4月2日から7日に亘り本学にて学内研修、4月10日から11日に亘り軽井沢プリンスホテルにて宿泊研修が行われた。

オリエンテーションは、オリエンテーション委員が中心となり、入学後間もない時期から組織作り、準備が進められた。各クラスから選出されたオリエンテーション委員は、宿泊研修の期間にクラスをまとめる役割を担った。また、オリエンテーション委員を中心に自らが行うべき役割の確認と宿泊研修中のルール作りや守るべきマナーの確認を行った。

オリエンテーションは、本学学生として相応しい学生活を送るようになるために、本学の「建学の精神」及び「教育方針」を理解し、身につける重要なプログラムである。次年度以降もオリエンテーションでの経験が学生生活に十分活かされるよう学生とともにプログラムの計画立案を行っていき

学年でのオリエンテーションについては特に、事前に2年生が計画を立てるようになり、1年生が新しい環境になじめるか考え、活動しました。その成果もありオリエントを中心に、学生同士のコミュニケーションを取ることで、今年度のオリエンテーション委員を務めさせていただきました。私たちオリエンテーション委員会は新しく入学してくる新入生を温かく迎えるため、昨年度から準備を進めてきました。入学前登校での受付や誘導、入学式、入学後の全体オリエンテーションではそれぞれの仕事に一人一人がしっかりと責任を持ち、学を超えて委員の皆で協力し、新入生を迎えることができたと思います。

学年でのオリエンテーションについては特に、事前に2年生が計画を立てるようになり、1年生が新しい環境になじめるか考え、活動しました。その成果もありオリエントを中心に、学生同士のコミュニケーションを取ることで、今年度のオリエンテーション委員を務めさせていただきました。私たちオリエンテーション委員会は新しく入学してくる新入生を温かく迎えるため、昨年度から準備を進めてきました。入学前登校での受付や誘導、入学式、入学後の全体オリエンテーションではそれぞれの仕事に一人一人がしっかりと責任を持ち、学を超えて委員の皆で協力し、新入生を迎えることができたと思います。

平成26年度体育大会を終えて

「仲間を信じて駆け抜ける」実践

大変有意義なものにした。国際交流の第一歩をこのよう成果を携えて歩み始めた彼らにとっては、この貴重な体験が人生の糧となるであろう。



今年度の体育大会は「人づくりを科学する」New Eraの仲間を信じて駆け抜ける」を大会テーマとして、5月16日に上尾運動公園陸上競技場で行われた。今回は1年生総括補佐を増やし、競技運営の核となるスターターや着順判定を全て総括学生が担当した。また、各クラス委員は担当係の業務を避け、1クラス1係とした。このよう

今年度の体育大会は「人づくりを科学する」New Eraの仲間を信じて駆け抜ける」を大会テーマとして、5月16日に上尾運動公園陸上競技場で行われた。今回は1年生総括補佐を増やし、競技運営の核となるスターターや着順判定を全て総括学生が担当した。また、各クラス委員は担当係の業務を避け、1クラス1係とした。このよう

今年度の体育大会は「人づくりを科学する」New Eraの仲間を信じて駆け抜ける」を大会テーマとして、5月16日に上尾運動公園陸上競技場で行われた。今回は1年生総括補佐を増やし、競技運営の核となるスターターや着順判定を全て総括学生が担当した。また、各クラス委員は担当係の業務を避け、1クラス1係とした。このよう

今年度の体育大会は「人づくりを科学する」New Eraの仲間を信じて駆け抜ける」を大会テーマとして、5月16日に上尾運動公園陸上競技場で行われた。今回は1年生総括補佐を増やし、競技運営の核となるスターターや着順判定を全て総括学生が担当した。また、各クラス委員は担当係の業務を避け、1クラス1係とした。このよう

今年度の体育大会は「人づくりを科学する」New Eraの仲間を信じて駆け抜ける」を大会テーマとして、5月16日に上尾運動公園陸上競技場で行われた。今回は1年生総括補佐を増やし、競技運営の核となるスターターや着順判定を全て総括学生が担当した。また、各クラス委員は担当係の業務を避け、1クラス1係とした。このよう



今年度の体育大会は「人づくりを科学する」New Eraの仲間を信じて駆け抜ける」を大会テーマとして、5月16日に上尾運動公園陸上競技場で行われた。今回は1年生総括補佐を増やし、競技運営の核となるスターターや着順判定を全て総括学生が担当した。また、各クラス委員は担当係の業務を避け、1クラス1係とした。このよう

今年度の体育大会は「人づくりを科学する」New Eraの仲間を信じて駆け抜ける」を大会テーマとして、5月16日に上尾運動公園陸上競技場で行われた。今回は1年生総括補佐を増やし、競技運営の核となるスターターや着順判定を全て総括学生が担当した。また、各クラス委員は担当係の業務を避け、1クラス1係とした。このよう

今年度の体育大会は「人づくりを科学する」New Eraの仲間を信じて駆け抜ける」を大会テーマとして、5月16日に上尾運動公園陸上競技場で行われた。今回は1年生総括補佐を増やし、競技運営の核となるスターターや着順判定を全て総括学生が担当した。また、各クラス委員は担当係の業務を避け、1クラス1係とした。このよう

大会委員長の経験 将来に活かす

健康栄養学科 調理師専攻2年C組 矢木 勇

私は、今年度の体育大会委員の委員長を務めさせていただきました。1年生の頃より、総括委員として準備に携わってきましたが、当時は何も分からず、2年生の先輩から様々なことを教わりました。特に体育大会当日の各係の動きについては、先輩と一緒に確認を確認を重ねました。しかし、昨年度の体育大会は、打ち合わせ通りに動けなかった場面もあり、来年度に向けての課題が残るものとなりました。

そして、2年生になり今度は先輩として、昨年より

も素晴らしい、充実した体育大会にしたいという思いで委員長になりました。リーダーシップをとりながら委員会を進行できるか不安もありましたが、昨年の課題を踏まえて分担を明確にして打ち合わせを行い、各クラスへの連絡・報告をするようにしました。

そして、体育大会当日の開会式と閉会式では全学生が定刻より前に整列・点呼を終え、静粛に私の話や体育大会の諸注意を聞いてくれました。競技は私たちが総括委員が中心となってスムーズに進行できました。その結果、みんなが楽しく競技に取り組み、クラスメイトを応援するなど、今年度の体育大会は盛り上がったと振り返ります。

体育大会委員長としてのプレッシャーはありましたが、私は今回の経験で学んだことをこれからの学生生活や、さらには将来の仕事に活かせるように、努力をしていきたいと思います。

